

## 全国安全週間中に安全指導を実施

全国安全週間の7月5日、林土連と東京林業土木協会は合同で現場で安全指導を実施しました。

当日は、林土連の菊池博輝専務理事と東京協会の譲原 彰安全委員長、星俊二常務理事の3名が、静岡県川根本町の大井川治山センター発注の治山工事の現場で安全指導を行いました。

関東森林管理局大井川治山センター（神林弘之所長）は、大井川地区で民有林直轄治山事業を実施しており、3月に発注された山腹工事2件が会員企業2社（河津建設(株)、(株)柳澤組）により施工されています。

河津建設(株)への安全指導では、同社の河野眞記農林治山部長、笹原友紀現場代理人等に対し、菊池専務から林土連会員に特徴的な重大災害の説明や、建設現場における3大災害（墜落・転落災害、建設機械等災害、倒壊・崩壊災害）防止に向けての具体的な対策について取り組み要請を行いました。

その後、参加者全員により現地の状況を踏まえた安全対策について意見交換を行いました。

河野部長らからは、現地は日本列島が南北からぶつかり合った糸魚川静岡構造線が走り、崩壊しやすい地質、急峻な地形のため、豪雨等により至る所に大規模な山崩れが発生しており、標高も高く気候変動も激しい条件下にあることから、工事に当たっては不安定な土砂による落石事故や、急傾斜地での転落事故に常に気をつけるよう指導しているとの説明がありました。

当日も下界では天気が良かったのですが、現地は濃霧で厳しい条件でした。降雨や霜が降りた時などは落石も多く、また、野生のシカも多いためシカが落とす石にも常に気を配る必要があるとのことで、安全な作業をする上で不安定要素が多く、高度な安全管理が必要な現場であるとの印象を強く受けました。

(株)柳澤組の現場も急峻な斜面で法面の安定工事を実施しており、現場に掲載されている危険予知表には、「上部法面からの落石」と「高所作業中の転落」が記載され、「作業前の法面の点検」、「足下の注意と安全帯の着用」が対策として記載されていました。

現場で説明をいただいた同社の鈴木隆之工事課長は、この現場の安全対策では落石事故の防止について一番気を使うと話していました。

その他、両社の関係者からは、この地域での工事では落石の危険性が低い春から秋にかけて工事を実施し、地表に霜が降りる頃には工事を終了することが安全上望ましく、そのためにも役所の早期工事発注を要望しているとの話がありました。

また、両社とも工事は集材機によるケーブルを使った工事となっており、見えない相手との連携作業での安全確保への取り組みが、この現場では欠かせないとの話がありました。

林土連及び地方協会は、全国安全週間を契機に、労働安全対策の推進、特に重大災害の絶滅に向けて、全力で取り組むこととしています。



急勾配ののり面工事箇所（上から）



河津建設への安全指導



架線を使用する難しい施工条件



柳澤組への安全指導